

# 日本の高齢者施設の紹介と、介護福祉士の役割について

小田 史<sup>\*</sup>

## 要約

日本では1970年以降、高齢化がもたらす社会問題を発端として介護の社会化が進み、福祉施策のひとつとして高齢者のための福祉施設が全国に整備されるようになった。本論では、入所型施設の特別養護老人ホーム、介護老人保健施設を取り上げ、その施設の特徴とお年寄りの生活の様子、又そこで働く介護や福祉、医療の専門職の様子を紹介した。

キーワード：高齢者施設、介護福祉士、介護福祉士の業務

日本にはおおまかに言うと2種類の高齢者のための入所型福祉施設がある。1つは介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）である。

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）とは、日常生活の介護が必要になった高齢者が、自宅で生活が続けられない場合や本人が希望する場合に、入所することで生活の安定を得られることを目的とした施設である。個人個人の介護の必要な状態にあわせ、介護を提供し、認知症の高齢者のケアや、施設で安らかに死を迎えることができるような「ターミナルケア」も行っている。

部屋は4人部屋、2人部屋、個室もあり、近年は全室個室という施設もある。車椅子の方でも生活しやすいよう段差をなくしたり引き戸にしたり、廊下やトイレやお風呂を広くするなどのバリアフリー（障害を取り除く）設計がされている。みんなで食事を楽しむための食堂や談笑ができるスペースが設けられ、生活の場としての環境作りがされている。年間行事を催したり、レクリエーション（文化活動）を行ったり、季節の食材を料理に取り入れたり、利用者の生活を楽しめるようさまざまな工夫が行われている。ここで働いているスタッフは、介護福祉士が中心で、他に看護師、介護支援専門員、栄養士などがいる。互いに連携をとりながら24時間365日、利用者の生活を支えている。数日から数週間の短期入所やデイサービス（高齢者が日中、食事や入浴に訪れる場）を同じ建物の中で行っている施設もある。

2つめは介護老人保健施設である。介護老人保健施設は介護が必要になった高齢者に対して、機能訓練を中心に、必要な医療・看護そして日常生活の介護を行うことを目的とする施設である。高齢者が、ここで介護や機能訓練を受けた後に自宅に帰って生活できるようにするという役割を持っており、入所の期間は原則3ヶ月とされている。

設備は介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）とほぼ変わらないが、リハビリテーションを行う設備がより充実している。医師や看護師、理学療法士、作業療法士などの医療スタッフが常駐しており、介護福祉士は利用者の生活を支える介護を医療スタッフと連携しながら行っている。

VTR「あしたをつかめ～平成若者仕事図鑑 介護福祉士編」NHK

NHKが作成した若者向けの番組で、毎回一つの職種を取り上げ、その仕事の魅力ややりがいを伝える内容となっている。「介護福祉士」が取り上げられた回のを、日本の介護福祉士の仕事の様子として紹介した。以下は、その概要である。

特別養護老人ホームの介護職員は24時間利用者の生活を支えている。紹介されているのは、東京都大田区特別養護老人ホーム「たまがわ」（定員240名介護職員は70名）で働く介護職員のSさん（28歳）勤続5年目の様子である。

<sup>\*</sup>大阪健康福祉短期大学

特別養護老人ホームは日常生活に常に介護の必要な高齢者の生活の場である。朝の食事風景。それぞれの障害に応じて、食べやすく工夫された食事が配られている。

大切にされているのは、個人のペースにあわせた食事の介護。声をかけながらゆっくりと介助が行われる。

一人一人の高齢者に対し、丁寧な介護をおこなうために、ケース記録が記入され、そこには個人の様子が丁寧に記録されている。この記録を参考に様々な面から利用者の介護が考えられている。

#### ・ 一人ひとりに丁寧に関わる

Aさんは一日のうち大半をベッドで過ごしているが、食事は車椅子に乗って食堂で食べている。Sさんは、Aさんの食事量が最近減ってきたことを気にしていた。そこで施設に週に一度食事の指導にやってくる歯科医師に相談。医師はマッサージを行うことで身体が目覚め、食欲が増すのではないかと伝え、実践した。すると口の動きがしっかりしてくることがわかった。早速、Sさんは食事の前にマッサージを行った。身体を丁寧にマッサージすると口が動き出し、しっかり食事ができるように回復した。

「介護の技術を向上させるとともに、利用者さん一人ひとりに丁寧に関わっていきたいです。」Sさんは語る。

#### ・ 夜勤の勤務

この施設での勤務のパターンは7:00～15:45、10:30～19:45、17:00～9:30の3つがあり、交代で勤務している。24時間の生活を支えるために、曜日にかかわらず働く不規則で厳しい仕事でもある。夜勤は15時間にも及ぶ。仮眠をとることができない日もある。

疲労により慢性的な腰痛をかかえている職員も多く、Sさんも腰痛予防のため腰ベルトを使用している。

介護福祉士の仕事は引継ぎから始まり、利用者の健康状態や一日の様子が日勤の職員から夜勤の職員に引き継がれる。Sさんが働く2階フロアには80人の利用者、夜勤の職員は3人である。4人部屋では一つ一つがカーテンで仕切られており、着替えやオムツ交換のときはカーテンを閉めて行う。消灯後も一晩に10回以上鳴るナースコールに応える。

また、急病やアクシデントに対応できるよう1時間

おきに見回りをしている。

#### ・ トイレで、自然な排泄を

Nさん94歳の女性。以前は一日の大半をベッドですごしていたが、最近では体力が回復し、車椅子で座ってられる時間が長くなってきた。普段の介護の中でSさんは、Nさんがオムツを嫌がっていることを感じていた。元気になってきているので、日中はトイレで排泄できないかと考えた。「やはりトイレで、排泄するほうが、気持ちがいいし、立ったり座ったりすることはリハビリにもつながると思います。」とSさんは語る。

このように介護の方針を変更するときは、スタッフとまず話し合いが行われる。まずNさんの身体の状態をリハビリの専門家である理学療法士に見てもらう。車椅子からベッドに座るために、半年振りに立ってみることに。不安がいっぱいで「できない」というNさんをSさんが励ます。ついにNさんは無事にベッドに座ることができた。30分にわたって練習をした結果、Nさんにはトイレに座る力があることがわかった。「私たちがお手伝いをした方が安全ではないかと思いがすることもあります。しかし本人が持っている力を大切にしたいんです。そうすることでもっと他にできることがあるのではないかと、という可能性が見えてくるんです。」とSさんは語る。次にNさんの家族を交えて、介護の方法が変わることを伝え、了解をとる。家族の了解を得ていくことも介護がうまくいく上で、大切なことである。スタッフが丁寧にNさんの今の状況を伝え、家族の了解をとることができた。

Nさんは半年ぶりにオムツを外しトイレに座った。介護福祉士の仕事の魅力についてSさんは次のように語っている。「介護の仕事は毎日同じことの繰り返しのようにも思います。でも同じではなくて、少しずつだけ変化がある。利用者さんの優しさや笑顔から人の温かみを、仕事を通して感じることができます。」

(終了)

介護福祉士の仕事のイメージを持っていただけたでしょうか。日本には約50万人の介護福祉士の資格を持っている人がいる。そのうち、介護の現場で働いている人は約半数である。労働条件の厳しさから職を離れる場合が多いのが特徴で、その環境を整えることも今後の課題となっている。

写真提供

特別養護老人ホーム いのこの里（大阪府吹田市）

参考 VTR

「あしたをつかめ～平成若者仕事図鑑 介護福祉士編」NHK

## An Introduction of Japanese Long-Term Care Facilities for Old People and the Role of Care Workers

Fumi Oda

Osaka College of Social Health and Welfare, Japan

Since 1970, socializing care for senior people has progressed in Japan to meet the problems of aging society, and more welfare facilities for the old have been built all over our country, as a policy of promoting social welfare. In this report, taking up long-term care institutions for the elderly and facilities for health services for the old, I am going to introduce the features of these institutions, and the daily life of aged people in them. Also, I will think about the work of nursing, care-giving staff, and of medical members working in these facilities.

Key words : welfare facilities for the old, care worker, the practice of care worker